

平成28年度決算の状況

平成28年度 水道事業報告書

1. 概 況

(1) 総括事項

水道事業は、給水人口の減少や節水機器の普及及び節水意識の定着等による使用水量の減少に伴って、料金収入が年々減少傾向にあり、経営的には非常に厳しい状況となっています。

今年度においては、給水戸数の微増や経常経費の削減の推進により、黒字とはなりましたが、営業収支では依然として営業損失を計上しており、よりいっそうの経費の削減等による経営の健全化が求められます。

水道事業の財政運営は、今後も一段と厳しいものになっていくものと想定されますが、将来の水道事業の目標や実現するための具体的な施策を示した「大竹市水道ビジョン」に基づき、施設の更新、耐震化を計画的・効率的に推し進め、水道事業のあるべき姿である「いつでも安全で安定した水の供給」の実現に向けてさらに取り組んでいきます。

(ア) 営 業

本年度の有収水量は、3,302,897 m³（1日平均9,024 m³）で、前年度と比較して10,598 m³（0.3%）の増加となりました。

(イ) 建設改良（消費税及び地方消費税込み）

本年度は、施設の改良工事等に総額で123,009,675円（うち消費税及び地方消費税7,054,632円）を支出しました。

本年度に実施した主な工事は、以下のとおりです。

・西栄三丁目・南栄三丁目地内配水管改良工事(2工区)	20,881,800円
・上下水道局庁舎空調設備更新工事	18,334,080円
・防鹿水源地運転監視データログ増設工事	10,800,000円

(ウ) 経理の状況（消費税及び地方消費税抜き）

平成28年度の収益的収支は、収入総額 528,685,418円、支出総額 473,268,674円で、差引き 55,416,744円の純利益となりました。

当年度における収支の状況は次のとおりです。

収益的収支	収入総額	528,685,418円
(消費税及び地方消費税抜き)	支出総額	473,268,674円
	差引利益額	55,416,744円
資本的収支	収入総額	38,597,337円
(消費税及び地方消費税込み)	支出総額	166,557,110円
	差引不足額	127,959,773円

資本的収支の不足額127,959,773円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 7,054,632円、過年度分損益勘定留保資金 120,905,141円で補てんしました。

○平成28年度 工業用水道事業報告書

1. 概 況

(1) 総括事項

工業用水道事業は、これまで安定した工業用水の供給を行うことで、本市の産業の活性化に寄与してまいりましたが、旧第2期工業用水道事業の企業債償還利息や減価償却費が財政を大きく圧迫するなど、厳しい経営環境となっています。

今後も、適切な施設の維持管理を行うとともに、より一層の経費節減を図りながら経営の健全化に努めてまいります。

(ア) 営 業

本年度の有収水量（計量分）は、9,588,452^m³（1日平均26,270^m³）で、前年度と比較して60,742^m³（△0.6%）の減少となりました。

(イ) 建設改良

本年度は、施設の改良工事等に総額で3,218,435円（うち消費税及び地方消費税238,402円）を支出しました。

(ウ) 経理の状況（消費税及び地方消費税抜き）

平成28年度の収益的収支は、収入総額512,781,385円、支出総額469,740,413円で、差引き43,040,972円の純利益となりました。

なお営業外費用中、企業債利息90,371,384円の財源にあてるため、未売水企業債利息債16,800,000円を借り入れました。

当年度における収支の状況は次のとおりです。

収益的収支	収入総額	512,781,385円
（消費税及び地方消費税抜き）	支出総額	469,740,413円
	差引利益額	43,040,972円
資本的収支	収入総額	229,000,000円
（消費税及び地方消費税込み）	支出総額	510,422,268円
	差引不足額	281,422,268円

資本的収支の不足額281,422,268円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額238,402円、過年度分損益勘定留保資金211,977,326円、当年度分損益勘定留保資金69,206,540円で補てんしました。

平成28年度 公共下水道事業報告書

1. 概 況

(1) 総括事項

公共下水道事業は、処理人口の減少や節水機器の普及等による処理水量の減少に伴い、使用料収入が年々減少しています。一方で地方の小都市としては比較的早くから事業展開を行ってきたことから、事業認可区域内における整備はほぼ完了していますが、施設の老朽化が進んでおり、その対策を含め厳しい経営状況となっています。

そのため、下水処理場やポンプ場等の施設の延命化と維持費の平準化等による中長期的な費用の抑制を図る「下水道長寿命化計画」に基づき、経費の節減等による経営の健全化に引き続き努め、今年度も利益を計上することができました。

今後も、いっそうの経営の健全化に努めるとともに、安心して生活を営むために不可欠な、快適な生活環境の維持と公共用水域の水質保全に取り組んでいきます。

(ア) 営 業

本年度の有収水量は、2,959,357 m^3 （1日平均 8,086 m^3 ）で、和木町からの受入水量は、1,843,399 m^3 （1日平均 5,037 m^3 ）になりました。

本市では、区域内水洗化率99.6%を達成し、人口普及率も94.4%であり、全国的に見ても高い水準を維持しています。

(イ) 建設改良（消費税及び地方消費税込み）

本年度は、施設の改良工事費に総額で585,098,472円（うち消費税及び地方消費税41,537,703円）を支出しました。

本年度に実施した主な工事は、以下のとおりです。

・大竹下水処理場3系最終沈殿池汚泥掻寄機改築更新工事	23,947,920円
・防鹿地区管渠布設工事（第1工区）	20,845,080円

(ウ) 経理の状況（消費税及び地方消費税抜き）

平成28年度の収益的収支は、収入総額 955,649,775円、支出総額 864,635,393円で、差引き 91,014,382円の純利益となりました。

当年度における収支の状況は次のとおりです。

収益的収支	収入総額	955,649,775円
（消費税及び地方消費税抜き）	支出総額	864,635,393円
	差引利益額	91,014,382円

資本的収支	収入総額	635,301,746円
（消費税及び地方消費税込み）	支出総額	908,471,907円
	差引不足額	273,170,161円

資本的収支の不足額 273,170,161円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 18,424,703円、過年度分損益勘定留保資金213,869,579円、当年度分損益勘定留保資金40,875,879円で補てんしました。